

令和7年第9回東京都北区教育委員会定例会

会議月日	令和7年9月10日（水）午後1時30分		
開催場所	北区教育委員会室		
出席委員	教育長 福田 晴一	委員 本間 正江	
	委員 名島 啓太	委員 川染 誉子	
	委員 長谷川 勝久	委員 宮川 淳子	
事務局職員	教育振興部長	教育政策課長	
	学校支援課長	教育指導課長	
	中央図書館長	飛鳥山博物館長	
関係職員	営繕課長	営繕課副参事	
		(設備保全担当)	

会議に付した議案並びに審査結果

日程	報告事項	報告内容	結果
1	29号	令和7年度「北区立学校生徒海外交流事業」の実施について	了承
2	30号	令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について	了承
3	31号	北区ふるさと農家体験館開設20周年事業について	了承
4	32号	仮称桐ヶ丘区民センター新築計画図（ブロックプラン）及び赤羽西図書館の同センター移転について	了承

<p>福田教育長</p>	<p>それでは、これより令和7年第9回北区教育委員会定例会を開会いたします。 出席委員は、定足数に達しておりますので、会議は成立しております。 初めに、日程第1、報告第29号「令和7年度『北区立学校生徒海外交流事業』の実施について」です。 教育指導課長から説明をお願いします。</p>
<p>教育指導課長</p>	<p>それでは、私から「令和7年度『北区立学校生徒海外交流事業』の実施について」お伝えいたします。 本区では、昭和63年度より、アメリカの中学校との交流を行うとともに、その家庭に滞在し、家族の一員として寝食を共にするホームステイを通して、滞在国の学校や家庭生活、自然や文化、風俗や習慣などに触れる生徒海外交流事業を実施しております。 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度及び令和3年度はこの事業は中止し、令和4年度は代替交流活動を実施、令和5年度から派遣、受入れともに、コロナ禍以前の海外交流事業を実施しております。 それでは、項番2、交流内容等についてでございます。 令和7年度は、11月11日火曜日から11月21日金曜日までの期間、カリフォルニア州ウォルナットクリーク市にあるセブンヒルズスクールに北区立中学校第2学年及び義務教育学校第8学年の生徒50名を派遣し、現地の中学生の家庭にホームステイするとともに、セブンヒルズスクールで体験授業や交流活動を行います。 なお、参加人数ですが、昨年度から2名増やしております。引率教員は昨年度と同様、事務局を加えて7名体制でございます。 また、令和8年2月7日土曜日から2月14日土曜日には、セブンヒルズスクールの生徒が来日し、北区立中学校、義務教育学校生徒宅へのホームステイを予定しています。同時に、区内学校園を訪問し、交流活動を実施する予定です。 なお、日程の詳細につきましては、項番3、北区立学校生徒海外交流事業に関わる日程に現時点での予定をお示しさせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。 私からは以上です。</p>
<p>福田教育長</p>	<p>ありがとうございました。では、本件について、ご質疑またはご意見ございますか。本間委員、お願いします。</p>
<p>本間委員</p>	<p>ご説明ありがとうございます。北区として35年以上にわたって、このような交流事業が発展的に継続されていることは本当に素晴らしいことですし、ぜひ今後も継続していただきたいというふうに強く願うところですが、先日、たまたま中学校の校長先生とお話しておりましたら、実施に当たって、引率教員の負担がやはりあるということから、なかなか希望なさる方が少ないというような声も伺ったり、あるいは男女比のバランスが悪くて、受け入れるお子さんとの兼ね合いの難しさがあるというようなことですか、そこら辺は説明で抑えてくださっていると思うんですが、行かれる生徒さんがあちらのホームステイ先のご家庭に対してのちょっと不満を、事前情報の中で口にするというような困り事があるというようなことを耳にいたしました。 ぜひ、さらにこれからも継続していくためにも、何か課題があれば、早め早めの対応が必要だというふうに思うのですが、終わってからいろいろ反省会等があると思うんですけど、その辺りの話合いとか何か事情が分かれば、教えていただきたいと思います。</p>
<p>教育指導課長</p>	<p>まず、今、本間委員からお伝えいただきました課題につきましては、やはり共有しております。もちろん校長会も含めてなんですけど、事業が終わったとき、都度ですけれども、課題については集約させていただいて改善に向けております。</p>

	<p>また、次の年につなげる会もございますので、その中でこういった課題をクリアしていくための改善策じゃないんですけども、お互い情報共有というか、共通理解の上で次の取組になるように、つなげるようにしております。</p> <p>一応引率教員等については、数も増やしていることもあって、なかなか手を挙げづらいというところも聞いてますので、そこは丁寧に今後も説明させていただくような形で、まずは継続させていきたいと思ってございます。</p> <p>私からはまず以上でございます。</p>
福田教育長	ありがとうございます。本間委員、お願いします。
本間委員	やはり、今、課長が最後におっしゃってくださった引率教員の負担というあたり、恐らくほかの教員に迷惑をかけるからというような思いもあるのではないかと思いますので、なかなか人材不足の中で大変だと思うのですが、講師対応と、安心して出掛けられるようなシステムがだんだんにつくられるとありがたいかなというふうに思っております。ご検討のほどよろしく願いいたします。
福田教育長	ありがとうございます。宮川委員、お願いします。
宮川委員	<p>先日、8月22日の生徒さんたちの決定通知書交付式に参加しましたけれども、やはりアメリカに行ってたくさん学びたいということと、そしてまた、北区に帰ってきて、周りにいるお友達にもみんないろんなことを伝えたいという発言がありまして、とても楽しみにしております。</p> <p>質問ではございませんが、ここに来まして、昨日のニュースでもコロナウイルスとかインフルエンザが大変、今、拡大して、九州のほうの小中学校では休校している学校もあるというニュースを見てましたので、11月でございますけれども、これからまたどんどんインフルエンザとか可能性もございますんで、北区全体として、ここはぜひ健康管理十分にしてほしいということをお願い申し上げたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
福田教育長	ありがとうございます。ほかにご意見等ありますか。川染委員、お願いします。
川染委員	川染です。成果報告会についてちょっとお尋ねしたいんですけども、2月28日に滝野川分庁舎体育館という予定になってまして、私、令和元年度にPTA連合会として、当時、北とびあでたしかやってたかなという記憶があります。ここの分庁舎体育館だと参加者も限られると思うんですけど、この海外派遣に行かれた生徒さんたちとか、引率教員の方が出席されると思うんですけど、その他の例えば来年度考えている学生さんとか、教員の先ほどちょっと迷っている方とか、そういった方って、その対象になっているのかどうか、広さ的な面とか、その辺の状況が分かれば教えていただければと思います。
福田教育長	教育指導課長、お願いします。
教育指導課長	<p>対象でございますが、委員おっしゃられたように、次の年にちょっと興味があつてどんなものか知りたいという子は対象にしています。それは、中学校の校長先生にお願いして、下級学年の中学校1年生に当たる子たちなんですけど、そこにその子たちに全員に行き渡るように日程等を周知しています。今、手元にないのですが、かなりの数参加していると思います。</p> <p>教員につきましては、服務の問題等もございますので、周知はしてないんですけど、その辺りについては、募集する段階で、また丁寧に説明するような形は取ってまいりたいと思っています。</p>

<p>福田教育長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。よろしいですか。ほかよろしいでしょうか。</p> <p>(質疑・意見なし)</p>
<p>福田教育長</p>	<p>では、ほかにご質問、ご意見ないようですので、ここで本件に関する報告は終了いたします。</p> <p>次に、日程第2、報告第30号「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について」です。</p> <p>同じく、教育指導課長から説明をお願いします。</p>
<p>教育指導課長</p>	<p>次に、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、各教科の平均正答率及び児童生徒質問調査の結果を中心に説明申し上げます。</p> <p>本調査は、小学校義務教育学校第6学年と中学校第3学年と義務教育学校第9学年の全児童生徒を対象として、本年4月に行われました。</p> <p>目的は、資料の1ページです。1ページに記載したとおりでございます。</p> <p>教科に関する調査につきましては、小学校中学校ともに国語、算数(数学)、理科の3教科で実施しました。理科は令和4年度以来でございます、中学校理科の実施方法は、コンピューターを用いてのCBT調査となりました。</p> <p>なお、この後の説明なんですが、義務教育学校の6年生と9年生は、小学校の6年生と中学校3年生に含ませていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、表示ページの2ページをご覧くださいと思います。</p> <p>こちらは、資料1、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果についてでございます。まず、上段の表をご覧くださいと思います。</p> <p>小中学校の各教科の北区、都全体、東京都全体です。国全体の平均正答率を一覧にしたものでございます。結果をこの表を見ながらなんですけれども、結果を先に総括しますと、小学校の各教科は、国と東京都の平均正答率以上となり、よくできていると考えています。</p> <p>中学校は、国語と数学の平均正答率は、国及び東京都以上となりました。</p> <p>理科は、国よりよく、東京都に若干及びみせんでしたが、ほぼ同程度と考えております。十分であると捉えています。</p> <p>なお、中学校の理科は、IRTという理論を用いています。500という数値が基準となりまして、標準と考えていただきたいと思います。500以上であればよい、500より下の数値になっていると、少し及ばなかったという捉えでお願いします。</p> <p>次に、資料の中ほど、1ページの中ほどからは、年度間の比較を一覧にしたものでございます。</p> <p>調査問題の難易度は毎年変わりますので、年度ごとに単純比較できないということから、区の基礎基本の定着度調査と同様、100を基準とした標準化得点というものを示して示しています。100以上であればよい、100未満であれば少し課題があるというふうに捉えていただければよいかと思っています。</p> <p>それでは、平成28年度から表に示してありますので、平成28年度から見ていきますと、年度間の多少の上下はございますが、近年は、全体的に安定化してきていて、国や東京都の平均以上の学力になっていると捉えています。</p> <p>これは資料にはないんですけれども、全国学力・学習状況調査開始年の平成19年度から見てきても、近年は特に高い位置で学力が安定していると分析しています。これは、学校の教員の頑張りがまず大前提ですが、学校図書館指導員等を配置したり、新聞大好きプロジェクトの推進を図ったりして、言語活動の充実を図ったこと、それから、学力パワーアップ講師等の人的支援を充実してきた、こういったことを北区の施策を地道に続けてきたことが、じわじわと効果として表れてきたと考えています。</p>

次です。これも資料にはないんですが、これから少し教科のことをお伝えさせていただきたいと思います。実施教科における課題について、簡潔にご説明します。

まず、小中学校に共通するものとしてお伝えいたします。

国語では記述式の書くことに課題がありました。資料等の文脈から必要な情報を取り出すことに課題が見られました。これは、区の調査と同様です。

算数、数学です。大変によい結果です。ですが、中高学年ともに、分数の通分、数の性質等の知識の習得が十分でないところがございました。

理科です。小中共通です。考察を書くことに課題が見られ、無回答率が高い傾向が見られました。また、国や東京都も同様の傾向ですが、物化生地、物理、化学、生物、地学のどの領域もそれなりに知識があればできる問題でつまづいている傾向が見られました。実験等の子どもの体験を十分にしている北区ですので、この辺の体験からの知的好奇心を伸ばして、もっと調べていきたいという心情を、これからも育ててまいりたいと思っております。

それでは、記載ページの3ページ、資料2をご覧ください。

この資料は、児童生徒質問紙の回答内容と教科の正答率の関係を分析したもので、次の2つの質問を取り扱いました。まず、どのような質問をお伝えします。

小学校の16番と中学校の16番に当たるものですが、まず、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。そして、5ページの小学校の39番と中学校の39番、授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら、課題の解決に取り組んでいますか。

今申し上げたこの2つの質問は、これからの探求的な学習に必要な態度と考えておりました、主体性と協働性に当たると考えています。この質問に、ほぼ肯定的な回答ほど、教科の正答率が高い傾向があることが分かりますので、主体性を大事にしながらかつ関わり合いも大事にした教師の授業改善をこれからも図ってまいります。

最後です。児童生徒質問紙の回答結果の分析について、簡潔にご説明します。

15番、普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますかについてです。小学校は15ページ、中学校は59ページです。小学校、中学校ともに、9割の児童生徒が肯定的な受け止めをしていることが分かります。子どもの権利と幸せに関する条例の子どもの意見表明権を大事にした教育活動の実施を、これからも図っていくようにしたいと思います。

次に、小学校は22ページから、中学校は66ページからの質問を取り上げました。29の1から29の4となっております。

きたコンとICTスキルに関する質問です。インターネットを使つての情報収集とか、プレゼンテーション発表スライドなどを作成とか、そういったものなど、約8割の児童生徒が肯定的な回答をしておりまして、国や東京都と比べても、それ以上の効力があつたと考えています。

今後も、子どもの力を伸ばす道具として、日常的に授業等で活用してきたきたコンを、さらに活用していくようにしてまいりたいと思います。

つけ加えです。資料はございません。男女差について、ニュース等で報道がなされていますが、本区も国と同様の傾向が見られました。算数（数学）以外は女子は男子よりも正答率が高い傾向があるのですが、その教科が好きとか、得意とか、そういった意識の面は、男子が女子よりも肯定的な割合が高い傾向があります。

理由ははっきりしないんですが、男子、女子のこういった傾向を把握した上で、どの子も主体的に取り組める授業改善が必要となりますので、こちらのほうを学校と共有してまいりたいと思います。

資料の分量が大変多くなっておりますので、詳細につきましては、後ほどご高覧いただけますようお願いいたします。

ご報告は以上でございます。

福田教育長

概要等々ありがとうございました。では、本件について、ご質疑またはご意見はござ

本間委員

いますか。本間委員、お願いします。

前は北区の基礎・基本調査の定着度調査の説明をしていただきましたが、そのときに、課長が次回の全国学力・学習状況調査と併せて、理科のことなどをお伝えいただけるということで、その意味が今回資料を事前に読みながらよく分かりました。理科も含めて、全体的に北区としてレベルアップしていることが、大変先生方のご努力のおかげと感謝しております。

また、指導主事の先生方が一般訪問で学校に行かれたときに、本当に短い時間の授業参観の中で、よくぞこれまでというぐらいに、大変丁寧で的確な、適切な指導をしてくださっているのを目の当たりにしまして、本当に北区のそういった体制というか、先生方個々のご努力というか、バックアップありがたいことだなというふうに思っております。

それを感覚的なところも含めてなんですけれども、それぞれの学校の個別の結果までは存じ上げないんですが、学校だより等にも掲載されているのを拝見しますと、やはり指導主事の先生方だけではなく、様々な講師の先生が校内研修などで指導してくださっていると思うんですが、それをいかに学校として受け止めて、日頃の継続的な指導等に生かしていくのか。それと併せて、この全国学力状況調査等の結果を日頃の学習に生かしていくのかというあたりで、そここのところのやはり肝は、管理職や主幹だろうというふうに思います。

やはり校長先生が先頭に立ってというか、研究のグループや研究主任だけに任せずに、いろいろ関わってくださっているところは、先生方の研究に対する姿勢が、やはりより活発な印象を受けます。

そういった意味で、今後さらに各学校に柔軟に任される教育課程になれば、なお一層だと思えますけれども、校長先生方のさらなるリーダーシップに、今まで以上に期待するところがあるという点を、何らかの形で、また、課長からお伝えいただけたらありがたいなというふうに思っております。

その分析は、今回はほとんどグラフのような形で分析がなかったんですけれども、直接は読めなかったんですが、基礎・基本の定着度調査のほうの分析内容が、年々レベルアップしていくような印象があるんですが、まず一つ後でお答えいただきたいのは、どのような形で指導主事の先生方中心だと思えるんですが、定着度調査の分析をなさっているのかを教えてくださいたいことが一つあります。

併せて、全国学力・学習状況調査のほうにつきましては、国立教育政策研究所のほうで、学力調査問題の解説というものを出していると思うのですが、あれがこの学習状況調査の結果を、日々の授業の中に生かしていく上でとても大事だというふうに思えますし、今の学習の方向性というか、そういったものをつかむ上でも、とても大事だというふうに思うので、ぜひ現場の先生方には、この各学校の小6、中3の子たちの結果と、その解説の文書を併せて授業に生かす、あるいは定期考査等の試験問題の中にも生かすということが、より向上していく上でのポイントになるのではないのかなというふうに思っています。

あともう一点だけ、不思議に思いましたのが、小学校6年の全国の今日のご説明のほうなんですけれども、学習に対する意欲の点で、ほかの教科は全国や都よりも高いんですけど、理科のみが、理科の学習に対する意欲が若干低いです。中学に行くとなぜか上がります。日頃の授業はあれだけ楽しく準備もなされてしっかりやっているのに、結果はそうかもしれないんだけど、なぜ意欲が都や国に比べて、全体的に低いという傾向が出ているのか。ちょっとこここのところが不思議です。この小学校で低くて、中学校でまた上がるというあたりについても、課長の目からご覧になって、今現在、そういった原因がどこにあるのかというようなことがお分かりでしたら、教えてくださいたいなというふうに思っております。

あと今の課長のご説明の中にもありましたけれども、解答を文章で書く問題というところについて、最後まで解答する努力というか、気持ちは低く、結果としてここにも

<p>福田教育長</p>	<p>出ているんですけども、ただ解答時間は十分でしたかということに対しては、逆に十分と答えているんです。文章問題に答えるのは、最後まで答えていないけれども、時間は十分あるというふうに言っている矛盾が、北区のところには見られたので、その点についても、何か心理的などころでの改善策があるのかなというあたりが、これは何か今、解答自身、自分自身で答えは見つけられないんですが、2点疑問に思ったところです。</p> <p>基本的なところですが、粘り強く取り組むことですか、書き慣れることですか、きたコンと並行して、そういった基本的なことをこつこつとやっていくことがやはり大事なのかなというふうには思いますけれども、まとまらない話で申し訳ないですが、いかがでしょうか、よろしく願いいたします。</p> <p>ご回答を頂く前に確認したいと思いますが、まずこの全国学力・学習状況調査、これだけ詳細にありがとございますというところ、指導主事の方々の分析の観点とか、それについてが1点目。</p> <p>2点目は国研から解説等々が出てますけど、それが日々の授業にどう生かされていますかというところかなと思います。</p> <p>3点目は、本間委員が不思議に思った点の小6の意欲です、理科に。なぜか全国、都よりも低い、何かその辺の思い当たる点は、これは私見になるかもしれませんがありますかというところ。あと同様に、なかなか書き込み、記載のほうは苦手なんですけど、でも時間は十分あるという、その乖離のところだったというふうに自分は思ってます。まずよろしいですか。その4点。</p> <p>では、指導課長よろしいでしょうか。お願いします。</p>
<p>福田教育長</p>	<p>まず、どのように分析しているかということでございます。</p> <p>今日の資料にはないんですが、区の基礎・基本の定着度調査は、大きく今年、様式を変えました。それは、指導主事の中でも課題として思っていたことで、それまでの分析は文章ばかりで、まずちょっとこれだと読まないかもしれないということをやっぱり指導主事のほうから出てきましたので、少しビジュアル的に表そうと、しかも簡潔に。どこが課題なのか。どういった問題でつまづいているのかというのを例示しましょう、具体的に例示しましょう。でないと、先生方は見ないんじゃないかということで、様式を改善しました。</p> <p>分析については、特に低いところ、正答率が低いところを抽出して、傾向がないか見るようにしています。当然に、国や、それから企業が分析した内容も参考にさせていただきながら、指導主事の専門性を生かして、このような形でお示しをさせていただき、このたび試行という形で、これで課題があればまた改善していくという形で考えています。</p> <p>あと教育指導員の分析については、教育指導員の先生方のコミットというか、ご意見も頂くんです。頂いて協議しながら文言に落とし込んでいくという形にしています。</p> <p>続きまして、国のほうの国研の分析も内容をどういうふうに生かしているかというところなんですけど、この点につきまして、率先してこうしていますということがなかなか言えないのが残念なんですけど、学校にはお示しするようにしていて、学校訪問の際に課題だな、この辺参考になるなというものについては、その資料から抽出して、学校訪問指導の中での資料として活用させていただいています。併せて全学校に周知はされているところがございます。活用方法の改善については、今後も検討してまいりたいと思います。</p> <p>続いて、小学校の理科の関心面というか、主体的に学習に取り組む態度的なところが、肯定的な評価が沈んでいるということです。これは、はっきりとはなかなか言えないんですが、若干分析資料の分析を経年でしていくと、平成27年、平成30年、令和4年、令和7年の本年、過去4回、経年で追っていくと、やっぱり本間委員のおっしゃられるように、少しずつ理科が好きですかというのは、小学校で微減している状況です。</p> <p>ただ、一方上がってきているものも、非認知に当たる領域の中ではあって、これはす</p>

	<p>ごいなと思うのは、社会に出たときに役立つと思いますかというのは増加しています。増加傾向です。この辺りで、北区の子どもたちが、正答率は上がってきているんだけど、ちょっとお勉強に偏り過ぎちゃっている面もあるのかなと、机上の勉強というか、本来の理科の授業の楽しさとか、その辺りがコロナ禍も踏まえて、特に、近年少し減ったんじゃないかと。実験も対面でやるが多かったので、マスクをしながら、またはやらないでくださいというような時代を経過している子どもたちなので、つまり小学校6年生は、コロナ禍で入学した初めての学年の子たちなので、制限が多い中での理科授業ということになります。ですので、その辺りの影響はあると思っています。</p> <p>一方、これは中学校で上がりますので、中学校の教員、先生たちが面白い授業をし出しているという傾向と前向きに捉えていますので、この辺りは小学校の先生が刺激を受けて、自主的に改善に向けて努力してくれるようになればいいなと思っています。</p> <p>いずれにしても、林理科アドバイザーとこの辺り情報共有しながら、北区の教育研究会の理科部とも共有しながら進めてまいりたいと思います。</p> <p>最後に、無回答率につながるような、最後までやり抜くというところが足りないんじゃないのかなというところにつきましては、個人的な意見で申し訳ないんですが、考察を書かないでそのまま終わっている傾向がありまして、過去の自分が関係しました研究校では、授業の中で1行でもいいから書くという、書くことを続けた学校は、無回答率が減ったという実践もございます。ですので、小学校、中学校共通の国語の書くことに課題があった分析結果が今出てますので、この辺りで書くということについて、もう少し意識した授業をしていくように、先生たちが方向をしむければ少し改善していくのかなと思いますので、そのように取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
福田教育長	<p>様々な視点から、また詳細ありがとうございます。いかがでしょうか。本間委員、お願いします。</p>
本間委員	<p>本当に的確なご回答ありがとうございます。課長がおっしゃることごもっとだなど思いつながら伺っておりました。</p> <p>最後に書くことのところでありますけれども、書くことについてはやはりきたコンが充実した活用が進めば進むほど、各教科とのタイアップの中でも、特に北区は、理科は課題があるというふうにまだまだ思いますので、理科と国語科をタイアップさせて考えて、国語科のほうで、理科の学習内容を意識した低中高ぐらいの段階で、小学校6年間全体を通しての例えば朝5分間の何か書く場面を設けるとか、帰りの会のときにちょっと今日1日振り返るとか、その内容は様々だというふうに思いますけれども、書き慣れるということに対しては、やはりこれからの時代だからこそ、逆にきちっと抑えていくことが大事ななというふうに思いますので、その辺りも、区教研などもせっかく組織として充実してきていると思いますから、小学校、中学校を含めて、教科を超えたそういった意見交換の場なども含めて行われるとありがたいかなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
福田教育長	<p>ありがとうございます。ほかの委員の方々はいかがですか。川染委員、お願いします。</p>
川染委員	<p>ちょっと質問というかちょっと興味があった一つ、小学校の19ページで、新聞を読んでいますかというところで、ほとんどの答えが全く読まないという、私のところもそうですけど、もう新聞を取ってない家庭で、大体皆さんスマホでニュース見たりとか、そっちになっているので、家庭でそもそも紙の新聞取ってないから、読みたい子がいるかもしれないけど読めないという子もいるのかなと。全国は物すごく低い状態になってますけど、オンラインでそういったニュースみたいなのを見ても、これは新聞を読んだことにはならないというふうになるんだらうなってちょっと受け止めたんですけど、この新聞はやっぱり紙というか、それを活字を意識した質問という形になってるんですか</p>

	ね。
教育指導課長	おっしゃるとおり、紙ベースの認識で聞いている質問になります。
川染委員	分かりました。それでは、ここはなかなかちょっと今後、環境がそうなってきたらというふうな受け止めました。ありがとうございます。
福田教育長	本間委員、どうぞ。
本間委員	今の川染委員のお話に対してなんですけれども、各学校、新聞を寄贈していただいていますので、校内で読もうと思えば、小学校も中学校も手に取る環境はあるのかなというふうに思います。 あとネットで新聞記事に当たるものを読むと、一つ一つ単発ですけど、紙ベースですと、ほかの記事にもおのずと目が行ったりという、そういう広がりに関連したところだけの広がりではなくって、違うものにも目が行くというよさがあるので、新聞読み比べもそういった意味ではそうかもしれないんですけども、やっぱりネットで読む記事と紙ベースで読む記事の意味合いの違いはあるのかなと、私自身は受け止めています。
福田教育長	ありがとうございます。続いて宮川委員、お願いします。
宮川委員	私も今の川染委員について、新聞を学校で、私も図書館に学校の図書館活動に長く携わってましたので、ある学校では、やはり図書館入ってすぐのテーブル2つぐらいのところに、全て新聞をたくさん置いてありまして、図書館に来ると、授業でも読みたい子は読めると。ただ、実際昼休みですとか短い時間の中で、わざわざ教室も1階から3階とかありますので、なかなかそういう昼休み時間に読みに来るということは、なかなか難しいとは思いますが、やはりそういうのも授業ですとか、先生から「新聞があるから読んでちょうだいね」というようなことを促すとか、本来であれば、一番理想的なのは、今、各家庭で新聞を取りませんので、学校の各クラスに新聞というものが1部でもあれば、そういうことを目に触れるという機会は多くなると思うんですが、やはり今実情がそういうわけですのでなかなか大変、紙ベースですと触れる機会というのは少ないのかなと思います。これもいろいろな工夫で改善される余地はあるかなというふうには思います。
福田教育長	ありがとうございます。時代でなかなか難しいところですよ。よろしいですか。 では、ほかにご質問、ご意見がないようですので、この件についての報告は終了いたします。ありがとうございます。 次に、日程第3、報告第31号「北区ふるさと農家体験館開設20周年事業について」です。 飛鳥山博物館長から説明をお願いします。
飛鳥山博物館長	それでは、報告事項31号「北区ふるさと農家体験館開設20周年事業について」報告いたします。資料を基にご説明させていただきます。 1、要旨でございます。北区ふるさと農家体験館は、浮間地区に所存しました古民家（旧松澤家住宅）を、平成17年に現在の赤羽自然観察公園内に移築復元し、開設いたしました。本年度で20周年を迎えることから、文化財講演会などの開催とともに、体験館祭りに併せて、周年行事を開催いたします。 2、主な実施事業と開催日時でございます。こちら表にまとめてございますが、まず1段目でございます。飛鳥山博物館において行う文化財講演会でございます。こちらは、移築復元の設計管理会社であります建文という会社なんですけど、文化財としての価値、また移築にまつわる講演等の予定をしているところです。

<p>福田教育長</p>	<p>4段目から7段目に飛びますが、11月の3日にふるさと農家体験館で開催いたします、ふるさと農家体験館祭りと併せた事業でございます。こちらおふるまいや様々な体験コーナー、ベーゴマですとか、やじろべえ作りといった今では体験できないコーナーを開催し、様々な体験していただくというコーナーでございます。</p> <p>参考に、事業のイメージの写真を添付させていただいております。</p> <p>最後に、下段、旧松澤家住宅解説会でございます。こちらは、現地で実際に住宅を見ながら、松澤家住宅の特徴や文化的価値を博物館学芸員が解説し、通常では入れない屋根裏部屋などに入れるように、見学できる予定としております。</p> <p>雑駁ですが、私からの報告は以上となります。</p>
<p>福田教育長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、ご質疑またご意見はございますか。よろしいですか。</p> <p>(質疑・意見なし)</p>
<p>中央図書館長</p>	<p>ご質疑、ご意見がないようですので、本件に関する報告は終了といたします。</p> <p>次に、日程第4、報告第32号「仮称桐ヶ丘区民センター新築計画図（ブロックプラン）及び赤羽西図書館の同センター移転について」です。</p> <p>本件所管は中央図書館長ですが、技術的な側面から、関係職員として総務部営善課長と営善課設備保全担当副参事にも来ていただいております。それでは、中央図書館長、ご説明をお願いします。</p> <p>それでは、私のほうから、報告第32号「仮称桐ヶ丘区民センター新築計画図（ブロックプラン）及び赤羽西図書館の同センター移転について」ご報告をいたします。</p> <p>お手元の資料、表紙をおめくりいただきまして、A4縦の資料、ページ番号1と下に記載ある資料をご覧ください。</p> <p>1の要旨でございます。</p> <p>東京都による桐ヶ丘団地の建て替え計画に伴いまして、創設用地、こちらを活用しまして整備されます仮称桐ヶ丘区民センターの設計に当たりまして、令和6年度の入札で委託受注者を選定し、これまで建物の機能や空間構成を具体化する基本設計を進めてまいりました。このたび、新たに建築する仮称桐ヶ丘区民センターの各室の配置等、基本となる計画がまとまったことから、赤羽西図書館の移転先となります同センター図書館について、その概要をご報告いたします。</p> <p>2のブロックプラン策定の経過でございます。</p> <p>お示しのとおりとなつてございまして、令和5年7月から整備方針、翌6年7月には設計の委託業者が決定し、令和6年の9月と11月にオープンハウス型説明会を実施しまして、区民の理解を深める取組を行ってまいりました。</p> <p>3の建物と図書館の概要でございます。</p> <p>赤羽西図書館の移転先となります図書館については、仮称桐ヶ丘区民センターの1階と2階の一部に配置となる予定でございます。</p> <p>添付いたしました資料、こちら2ページ以降の別添1、仮称桐ヶ丘区民センター新築基本設計計画概要説明、こちらプラン全体の概要でございます。</p> <p>4ページをご覧くださいまして、4ページ右側に施設の位置が分かる図を示してございます。こちら中央が仮称桐ヶ丘区民センターの計画敷地、この左側、西隣となりますが、こちらの民間事業用地にイオンさんが建つ予定となっております。</p> <p>次に、別添2の仮称桐ヶ丘区民センター新築計画図（ブロックプラン）、こちらの9ページまでお進みください。</p> <p>9ページ、右側に施設の配置図や敷地建物の全体像が分かるデータの一覧を表として載せてございます。お示しのとおり、図書館のほか、地域振興室、ふれあい館及び授産所や高齢者あんしんセンターを併設します複合施設となっております。</p>

	<p>資料飛びまして11ページをご覧ください。ご覧のとおり、図書館については、1階と2階のグリーンの部分に配置予定でございます。左が1階の平面図でございますが、下側の風除室部分、こちらが出入り口となっております、すぐに閲覧スペースと交流ラウンジを兼ねた広間約172平米がございます。その奥に図書館の階下スペース約396平米、また事務室等約54平米を配置してございます。また、西側には子どもへの読み聞かせなどを行いますお話の部屋約32平米を配置してございます。右側は2階の平面図となりますが、図面の上のほう、北側に図書館の学習室約90平米、閉架書庫約103平米を配置いたします。なお、図書館の資料はセンター内のどこでも閲覧できるような運営を考えておまして、図書館の盗難防止対策として、利用者の出入り口となります1階の風除室、こちらの部分に盗難防止のアラームシステムを設置いたしまして対策をいたします。</p> <p>お進みいただき、また17ページ以降にお進みいただきまして、17ページ、施設の外観イメージ図を載せてございます。後ほどご覧下さい。</p> <p>以上が、赤羽西図書館の移転先となります同センターの図書館の概要でございます。今後、具体的な設計を進めていく中で、生涯学習のみならず、地域の拠点施設としての図書館となるよう、関係各課と連携し、センター完成に向けて進めてまいります。</p> <p>最後、4の今後の予定でございます。</p> <p>お示しのようなスケジュールで進みまして、令和8年の9月に工事着工、令和10年の秋頃に建物が竣工予定となっておりますので、同年度中には、赤羽西5丁目にございます現行の赤羽西図書館をこちらに移転しまして、運営を開始する予定でございます。</p> <p>以上、ご報告させていただきました。</p>
福田教育長	<p>ありがとうございます。では、本件についてのご質疑、またはご意見ございますか。本間委員、お願いします。</p>
本間委員	<p>ご説明ありがとうございました。まず1点目、今、様々なところでの公費で行っているものが、資材高騰などで、入札不調などのことを耳にいたしますけれども、これだけ立派なもので、その辺りの予算的な見通しをここで確認するのとは思いますが、十分な見通しを当然持っていらっしゃると思うんですが、その辺りについて、分かる範囲で教えていただけたらありがたいです。</p> <p>2点目が、前回、他の委員から出たことで、図書館の中でもちょっとお話、さっきお話を伝えるところはあると言いましたけれども、利用者同士がちょっとお話をできたり、ちょっと音が出せたりするところがあるといいですねというお話がありましたけれども、そういったようなことを考えていらっしゃるのかどうかを再度伺いすることと併せて、ティーンズセンター的な機能も何か盛り込まれるのかどうかも、併せて教えてください。</p> <p>以上です。</p>
福田教育長	<p>では、3点ありましたけれども、よろしいでしょうか。まず資材高騰、それから、交流の場の音の検討とありましたけれども。</p> <p>営繕課長、お願いします。</p>
営繕課長	<p>ご質問ありがとうございます。委員ご指摘のとおり、昨今、建設の物価高騰など、あと技術者の不足なんかで、入札不調が出ている状況でもございます。こうした状況を受けまして、我々工事所管課としましては、技術者の確保のために、早期に入札情報を発信したり、積算額につきましても、最新の物価状況を加味しまして積算を行って、対策を行っていく形を考えてございます。</p> <p>いずれにしましても、事業が遅れることのないよう、不調対策を講じながら対応を図ってまいりたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>

福田教育長	図書館長、お願いします。
中央図書館長	<p>図面の1階と2階、3階にもございますが、交流コーナーという交流スペースがございまして、こちらでは多少の会話が可能というふうな設定をしております。ただ、もともと図書館自体は静寂を求められる施設でございますので、一定程度のお話し声はいいとしても、3の質問にもつながりますが、子どもたちが集まってがやがやするという状況はちょっと厳しいというふうに感じてございます。なので、1階のほうは、こちらのほうにはオープンスペースもございますので、そういった会話とか、飲食も可能な想定もしてまして、そこで本を見ながら、飲食しながら本を読んでもいただくということを想定してまして、その分、2階につきましては静寂スペースと考えておりまして、奥に学習室を設けて、こちらのほうで静かな環境で読書をしていただくという形で、役割分担というか、そういった形でスペースを分けて考えているところでございます。</p> <p>したがって、3番の質問につながりますが、やはり原因がございまして、子どもの居場所としての機能としてよりは、コミュニティスペースとしての役割を中心に考えてございます。</p> <p>以上でございます。</p>
福田教育長	倉林振興部長、お願いします。
教育振興部長	<p>ティーンズセンターですとか子どもセンターの部分については、このエリアって、桐ヶ丘の児童館があって、あともう1つは赤羽ラインのところに今後建設される児童相談所等複合施設、あちらに子どもの関係が一定程度、それはティーンズではないんですけども、乳幼児を対象とした親子スペースですとか、そういったものは入れさせていただく予定なので、ここの部分については、もともと近隣にあった地域振興室であるとか、あとは高齢者あんしんセンター、あと赤羽西図書館、そういった近隣の施設を集約化するということを主眼に考えているので、これ以上の追加の施設というのは近隣で対応できていることから、子どもの関連について、あえてここに入れるということは、区全体としては考えていなかったというふうに聞いています。</p>
福田教育長	ありがとうございます。広域のところからの観点でした。よろしいですか。ほかに。本間委員、お願いします。
本間委員	コミュニティスペースのイメージって、どんな感じをお持ちでしょうか。
福田教育長	営繕課長、お願いします。
営繕課長	<p>コミュニティスペースの環境なんですけれども、これは、すみません。図面でいうと1階の平面図の中央の交流スペースのところのご意見でよろしかったでしょうか。こちらは図書の本を持って、自由に交流できるスペースという形で、隣に先ほど中央図書館長からご説明があったとおり、イオンができる関係もありますので、そこで買った物を、こちらの交流スペースで持ち込んで本を読みながら飲食しながらというところの交流スペースを考えているところでございます。ですので、他世代がここで集い、にぎあえる場所といった意味もあって、こちらのスペースを設けているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
福田教育長	ありがとうございます。よろしいですか。では、長谷川委員、お願いします。
長谷川委員	2点お願いします。今のコミュニティスペースの件ですけれども、前に発言させていただいたのは、何か子どもたちが探求学習なんかで図書館を訪れたときに、コラボレー

	<p>ションができるようなイメージを持っていましたけども、今の倉林部長の話を伺いまして、そういうのは学校の図書館でやって、恐らく地域の人たちの目的というふうに、今のご説明で理解しましたので、そういうふうにするのであるならば、そういう目的でということでもいいのかなというふうに思いました。</p> <p>あともう一点は、昨今、また全然違う観点になりますけれども、図書を保管していくスペース、書庫みたいなものがどこの自治体も、博物館もそうだと思いますが、置いておく場所がないということで、本学の大学の図書館もそうなんですけども、どんどん本が毎年予算で買って増えていくんですけども、それどういうふうにして、ストックしていくようなスペースというのがあるのかなのか。そして、もう一つは区民の皆様に閲覧できる、目に見えるような図書を残す部分とアーカイブにしていく部分というところで、どんなふうな選定基準でアーカイブにしていくのか。あるいは、昨今少し費用がかかると思いますが、アーカイブにするときには、もうデジタル化してしまっていて、紙としてのいわゆる物理的なスペースを取らないような形で予算を組んで、一つストックしていくというのもありかと思うんですけども、その辺のちょっと見通しみたいなことを聞かせていただければなというふうに思います、よろしく願いいたします。</p>
<p>福田教育長</p>	<p>倉林部長</p>
<p>教育振興部長</p>	<p>私のほうから。まず、ここの建物全体としては、あくまで区民センターの扱いです。ですので、そこの中に、今言った、図書館というと、学習の視点にエッジを利かせるというやり方もあると思うんですけども、全体としては、桐ヶ丘のエリア全体で見て、その公共交流施設の、例えば集約化であったりとか、全体の機能を考えて、周辺にないものをここにに入れていく、あるいは集約化をかけたというものです。</p> <p>ここについては、あくまでも、図書館の中では地区館の位置づけになりますので、今、赤羽西にあったその図書館をこちに引っ越してくるという中では、一定程度利便性は図ってはいるんですけども、センター全体の中で考えたときには、そこまで形を持っていないということでご理解いただきたいというふうに思います。</p>
<p>福田教育長</p>	<p>中央図書館長、お願いします。</p>
<p>中央図書館長</p>	<p>今、ご心配いただいた図書のストックでございますけれども、まさに、この図面の2階、右上のほうに閉架書庫がございますが、閉架書庫に大体6万冊程度の資料を格納予定でございます。この閉架書庫はあたりなかつたりする館がございますけれども、実は上十条図書館が昨年、令和6年に閉館いたしまして、その関係で結構な図書が出ております。そういった中で、一定程度の基準を持って、古いものは廃棄して、新しいものは入れてと、図書の回転はさせているんですけども、図書を一気に置けませんので、そういったものをこういった閉架書庫を使ってストックしておきながら、必要に応じて、区内全館のニーズに応じて図書を提供できるようにしている状態でございます。なので、そのもの自体をアーカイブしてということは現在考えておりません、来年1月に予定してございます電子図書館、こちらをまず始めてみて、こういったニーズがあるかを検証しながら、今後の電子図書館のほうを進めてまいりたいと思います。</p> <p>一方で、また、今年もそうですが、現行の紙も、書籍資料等につきましては、現状維持で進めたいと考えているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>教育振興部長</p>	<p>いわゆる貯蔵ですとか蔵書の保管について、やはり課題ではあります。区全体の公共施設で考えたときに、それをどこにどういう形で分散して置かせるかというのは課題で、こういった新しい施設が立ち上がったときに、住民の方が立ち入らないような倉庫のつくりになるのはよくないという議論が今回もありまして、大分このエリアの使い方、エリアの大きさですとか、その使い方については、大分関係者の議論がありました。今、</p>

	<p>図書館長から話があったとき、基本的には閉架ではあるんですけども、実際に、要求に応じて、当然出し入れをしたり、この赤羽西から持っていきみたいな、そういう運用をしながら、基本的に生きた資料になるような形で使えるようにはしています。</p> <p>あと、もう一つ、アーカイブについては、歴史的な資料とかについては、これまでも、区民の、ある団体さんからのご提案なども頂きながら、デジタルに切り替えていくというような施策は展開していました。ただ、一定程度、その量ですとか、何を狙ってやっていくのかというのが課題になっていますので、今後、こういう資料をそのスケジュールでやっていきますという計画を、今持ち合わせているわけではないんですけども、将来的には、そういったものをやっていく形になるだろうというふうに思っています。</p>
福田教育長	<p>ご丁寧な説明ありがとうございます。ほかには、宮川委員、どうぞ。</p>
宮川委員	<p>新しいこういう施設ができるということで、私、普段自転車で移動することがほとんどでして、図書館の利用も自転車で行きます。今回、隣に民間利用用地と、大きなイオンが入るということで、この図面の資料の6ページ、拝見しますと、1階のところに駐車場、また、さらに資料の9ページを見ますと、自転車、駐輪場がバイク2台を含む40台分というふうにあります。大体普通の図書館は、普通に平置きというか、たくさん利用しているときにはもう詰めて置きますし、そういう感じなんです。時間の制限もありません。ただ、今回イオンが隣ということで、イオンさんは、今、駐輪場が有料になっておりますので、イオン利用の方たちが駐輪場として図書館を利用した場合、たった40台分のスペースというか、それぐらいです。地域性とか、あと時間帯、そういったものにもよるとは思うんですが、放課後に子どもたちが図書館に来るとか、そういうことで、もしかしたら、本当に使いたい人たちの駐輪ができないという可能性がないかなというのは、普段駐輪場、図書館であちこち利用している私からすると、心配事の一つなので、この点は、使用してみないと分からない点かもしれませんけれども、一応そちらとイオンさんとの絡み合いというか、そういうことも見ながら、利用者の状況を把握していくべきではないかなというふうにちょっと思いました。</p>
福田教育長	<p>中央図書館長、お願いします。</p>
中央図書館長	<p>ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりでございます。現時点では、建物が固まったというような状況でございますので、会館の施設の運用、駐輪場を含めて、地域の拠点となります施設でございますので、イオンさんとの連携とか含めながら、ご意見を頂戴しながら、今後検討してまいります。</p>
	<p>以上でございます。</p>
福田教育長	<p>ありがとうございます。ほかにご質疑、ご意見はよろしいですか。</p>
	<p>(質疑・意見なし)</p>
福田教育長	<p>では、ないようですので、ここで本件に関する報告は終了といたします。以上で、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして、令和7年第9回教育委員会定例会を閉会いたします。</p>